

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203089		
法人名	医療法人和香会		
事業所名	グループホーム和らぎ歓び (歓びユニット)		
所在地	倉敷市福田町古新田1051-2		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム和らぎ歓びは開設して7年半が経ちました。歓びユニットでは、開設当初の方が半数以上おられ、重度化がみられてきています。住み慣れた歓びでの生活を少しでも長く安心して送って頂けるように、母体が医療法人という特色も活かし、病院、訪問看護ステーションと連携し支援しています。また、ご家族さまのご協力を得ながら、共に入居者さまを支えられるように現在取り組んでいます。気軽に立ち寄れる「家」になれるように、積極的に職員から入居者さまやご家族さまへ、お声を掛けをさせて頂いております。また、ホーム内では、なじみのある季節行事をしたり、時には、併設のデイサービスの利用者さまと一緒に行事を楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に開設して、もう丸8年が近付いている。2ユニットで1つのユニットは天窓を設けており、明るい長屋風の町をイメージした造り、もう一つのユニットも純和風の造りで、枝垂れ桜を中心にお部屋がある。そして中央にコミュニティが実現できる多目的ホール付きで近所や地域との交流を可能とした「ふくだの里」の一事業所として立ち上がった。ずっと続けていた管理者が法人内異動となり、若い男性管理者と後日就任予定の女性管理者の2人組でこのホームを盛りたてる事になった。しっかりした目標を立て、職員が手近かな共通認識に立ってそれぞれのユニットを運営して、利用者の楽しみのある生活を提供しようと考えている。利用者はそれぞれ個性があり、個別ケアと自由な生活を確保する一方、職員が笑顔で元気一杯で一人ひとりが成長していけるよう支援をしようと考えている。10年に向かって成長するホームに期待したい。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成23年3月31日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、ユニットごとに年度の目標を立てスタッフのケア統一を図るように努めている。今年度は、*みんなが明るく楽しい喜びにと、挨拶の励行や笑顔に心掛ける事を目標に掲げた。	「チームワークがあり、思いやり溢れた喜びに」「その方らしい生活が出来るようにより一人ひとりを見ていく」を目標に掲げ、管理者を中心にスタッフが心を一つにして頑張っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流については、普通の生活が送れるように地域資源を使うことを意識している。買い物やなじみの理美容店を利用したり、周辺への散歩などを行っている。 (21・目標計画達成)	買物は地域の店を利用したり、ホームで飼っている犬「ハッピー」と遊ぶ為近所の子供達が訪ねてくる。年末にはホームで餅つきをし、地域の子供達を招く等地域との交流が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な活動は行っていないが、倉敷市内の看護学校の実習受け入れ、近隣の中学生からの職場体験の場として提供している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族より交流会の提案があり、運営推進会議で話し合った結果、年に4回(花見、夕涼み会、和香まつり、餅つき)以外で、畑の草抜きや手入れに年2回お声を掛けさせて頂く事になった。 (21・目標計画達成)	運営推進会議で家族の交流会の話が取り上げられ、「花見、夕涼み会、和香まつり、餅つき」の他にも畑の手入れや草抜き等にも家族の支援を得る事ができるようになり、家族同士のつながりも強まったようだ。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や、指導相談などをさせて頂いていますが、積極的に連携を図っているとはいえないと思う。	市には事故の報告や相談など必要時に連絡し、指導を受けている。困難事例等については法人内で相談して解決する事もある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないという信念で運営している。玄関の施錠についても、夜間帯のみで、日中は自由に出入り・面会ができるようにしている。内部研修や毎月のカンファレンスなどで、身体拘束について、周知徹底するように努めている。	身体拘束は絶対にしないという信念でケアに当たっている。「Bさんが今、デイサービスの所に来ているよ」とデイサービスから連絡が入る事もあり、法人全体で見守っている感がある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部の研修で、高齢者虐待防止について理解を深め、徹底するように努めている。GH内でも、入居者への対応について、適切でない声掛けや対応があれば、職員同士が注意しあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、ご家族以外で、後見人になっておられるケースは数例ありました。今後、成年後見制度が必要なケースも考えられ、職員の制度への理解が大切になってくると思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前に、必ず施設見学とサービスの内容、ユニットの状況、利用料などの説明をさせて頂いています。実際の契約時にも、重ねて説明をさせて頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽にご要望を頂けるように、面会時などに、職員から積極的に利用者のご様子をお伝えしている。また、計画書説明時に、改めて、管理者より、ご要望を頂けるようお声掛けをさせて頂き、運営に活かしている。	面会はいつでもOKであり、面会時に利用者の様子を積極的に話し、希望や要望を聞いている。また、運営推進会議に家族も出席しているので、公の発言の場も提供できている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、各職員の意見を尊重し、良いと思う事は、積極的に取り入れている。また、スタッフミーティングを月に1回行い、意見や提案を自由に行えるようにしている。ほかに、個別面談を年に1回設け、相談にのっている。	月1回のミーティングや日々自由に意見を述べる事が出来、よいと思う事はどしどし取り入れている。また、年1回、個人面談を行い、希望や相談にものっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務帯について、利用者に不自由なく、各職員が働きやすいように工夫をしている。管理職の評価だけでなく、各職員同士が相互相対評価を行っている。(賞与時)		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回内部研修、年に1回以上を目標に、各職員の力量や内容に応じた、外部研修に派遣している。また、個別面談時に、各職員に個人目標を立ててもらっている。 (21・目標計画達成)		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流の機会として、日本認知症グループホーム協会に所属し、研修に職員を派遣している。他施設の方の見学も、制限なく受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当所は不安なことが多いため、手厚い対応ができるようにお声掛けを積極的に行っている。信頼関係の構築は人間関係の基本と考え、認知症の有無に関わらず、関係作りを心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、十分な相談をしている。また、入居前の情報について、必要な機関へ情報提供をしている。利用者のご様子についても、入居後、数日以内に報告させてもらい、ご希望に沿えるようにケアを提供している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の状況をみながら、適切なサービスを提供していけるように努めている。必要に応じて、医療・看護・リハビリスタッフなどより、アドバイスももらっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者は生活者であることを念頭に置きながら、日々暮らしている。可能な利用者にも、生活での役割を担ってもらい、「ありがとう」が行き交う生活である。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一番力を入れて取り組んでいます。入居して年月が経つと、ご家族の足が遠のいてしまっていることがありますが、一緒に誕生日会に参加して頂いたり、できる範囲での協力をお願いしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会をして頂き、大切な人を少しでも忘れないように日々のお声掛けで積極的に取り入れている。なじみの場所にも、理美容を含め、外出時などに行けるように努めている。	昔からの美容室に行ったり、家族、親戚、友人がいつでも訪問できるように配慮して、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役となり、利用者同士の関わりが持てるように支援している。孤立しないように、職員が1対1での関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、定期的に見舞いも兼ねて訪問するようにしている。また、ご家族からの相談にも随時対応するようにしている。OB会として運営推進会議、餅つき等にお声を掛けさせて頂き、気軽に来れる雰囲気作りを心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の訴えや、生活の様子を把握し、なるべくご本人らしい生活を送ってもらえるように努めている。日々の申し送りノートやユニット会議で、随時検討している。	職員2人で3人の利用者を担当し、思いや様子を把握し、全スタッフに周知するよう努力している。訴えない方には、以前健康志向の高い方だったので「入院はいやよね?」と職員の問いかけに表情を曇らせる等表情から読み取っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査票にある生活歴を重視している。入居後に知り得た生活歴についても、各職員が情報共有に努め、ケアに活かしている。また、入居前の情報について、必要な機関へ情報提供をしてもらっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りノートを活用し、現状把握に各職員が努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を重視した介護計画を心掛けている。目標設定をし、日々のケアでも、意識していけるように、介護計画書をよりわかりやすいものにした。	本人、家族の希望を聞き、担当者や日々の記録から問題点を探し、目標を設定してプランを作成。全職員で話し合いケアを行う。	生活記録の方式や内容の改良を加えているが、記録や計画等全体の関連をもう少し突っ込んで考えると全体としてまとまりが出来て効果の高いケアマネジメントにつないでいけると思う。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子をこまめに生活記録や申し送りノートに記入し、情報の共有に努めている。実践や介護計画の見直し時に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの利用者について、より良い生活を目指し、ユニット会議などで、十分検討し、必要な福祉用具や医療・看護・リハビリ支援を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふくだの里として、となりのデイサービスの行事参加などを行っている。また、近隣のスーパーへの買い物や理美容店を利用し、地域資源を使うことを大切にしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を基本に、協力医療機関や従前からの主治医と連携を図っている。受診支援もGHの業務と位置づけし、必要に応じて医師とご家族の話し合いの場を設けたり、受診への付き添いを行っています。	ホームの協力医療機関から月1回訪問診療がある。本人の希望する主治医があればそちらに通院し、連携を図っている。近隣の眼科等への通院はホームで介助している。母体が医療機関で医療と介護の連携がとれているので利用者は安心である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師の配置があり、少しの体調の変化にも迅速に対応や処置がされている。必要な時はかかりつけ医や診療科へ受診している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への情報提供や入院後の連絡調整を密に行っている。入院された場合でも、条件に応じて居室確保を保証している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の当事業所の方針を説明している。また、終末期に近くなっている利用者ご家族へは、改めて説明を行い、万が一が起きた場合に備えて頂いている。納得した最期を迎えられるように主治医へも随時意向を報告している。	入居時に重度化した場合の事業所の方針を説明している。終末期が近付くと再度説明し、家族の気持ちを確認し、家族が希望し医療的処置が必要であれば、主治医、看護師、家族と連携をとりながら看取りをしたいと考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は心急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルを基本に適切な対応ができるように、ユニット会議や内部研修で取り組んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置してあるが、年間2回の避難訓練を実施し、避難経路、方法について周知徹底している。又、近隣にも火災時の避難や協力の要請を説明してある。	災害対応マニュアルを作成し、年2回避難訓練をして、避難経路、方法について確認している。スプリンクラーも設置し、近隣にも災害時の避難や協力をお願いしている。	避難訓練の時に消防署の方にも参加してもらい、プロの目から見た避難経路の確認等してもらってはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できたことに対しては、共に喜ぶ姿勢を大切に、日々の声掛けに尊厳を持って対応している。排泄面に対しても、プライバシーに配慮したお声掛けができるように支援している。	「この人寝ているか起きているかわからん」というTさんの言葉を聞いて涙ぐむCさん。「Cさんは今病気だからこうなっているのよ」とTさんを諭す職員。Tさんのストレスがたまるとこんな言葉が出てくるので、ストレスをためないような配慮も欠かさない。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がしたいことを優先に考えているが、自己決定ができる方が少なく、表情や言動からこちらが読み取る事を大切にケアをしている。一人ひとりの状態に合わせて答え易いお声掛けを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、各利用者の心身状態や生活パターンを重視し、個別の支援を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、尊厳保持の基本であると考え、その人らしい身だしなみやお洒落をご家族にも聞いたり、協力してもらいながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お声掛けに、食事の話題を取り入れたり、季節に応じた献立を各職員が考え、工夫している。できる範囲で、食器洗いや盛り付けなどのお手伝いを職員と一緒にやって行っている。	半数が介助が必要だが、それぞれのペースに合わせて、楽しく話しかけながら時に嚙下を促し、1時間以上かけて食事介助している。一人で食べている方への配慮も忘れない。配膳など出来る方にはどしどし手伝ってもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて、食事形態も変え、食事摂取量が確保できるように工夫をしている。食事が摂れない場合も、高カロリー飲料やプリンの提供をしている。水分量も必要に応じて、把握し、脱水症状防止に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に口腔ケアを行っており、毎食後残渣物がないように気をつけている。また、口の周りもお手拭きを用意し、清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレを備え、できる限りトイレで排泄ができるように支援をしている。必要な方には、2人介助にて、日中最低2回以上は、トイレ誘導を行っています。本人の様子や時間を見計らってトイレ誘導を行っている。	一人ひとりに合わせた声かけをし、トイレに誘導している。以前失禁が多かった人もトイレに座ると排尿できるようになったり、二人で介助していた方が一人介助で排泄出来る様になった改善例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を把握し、便秘の予防に努めている。水分量も1日1000ml以上を目標に1日6回以上提供し、野菜ジュースやヨーグルトジュースなどを朝一番に飲用し、便秘の予防に心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、希望者には、入りたい時間帯でお声掛けをしている。毎日午後から、入浴日を設けており、週に2回を目安に入浴を提供している。	出来るだけ本人の希望に合わせて入浴できるよう支援している。入浴中はじっくり話を聞くよう配慮している。入浴拒否の方には、時間やタイミングをずらして入浴を促すようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態に応じて、朝・夕方にベッドで休んで頂く機会を設けている。また、リビングで休まれている方には、リクライニング車イスにて安楽を心がけたり、随時和室へのお声掛けもしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の薬剤師より、アドバイスを頂いており、気軽に相談ができるように連携が図れている。また、薬表のファイルを作成しており、薬の効用や副作用を各職員が随時目に見えるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、食器洗いや洗濯物たたみ、モップがけ、タオル配りなどをしてもらっている。季節行事についても、レクリエーション委員会を中心に毎月1回を目標に行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はとても大切だと考えている。花見や夏祭りなどの季節行事や日常の散歩、買物、散髪など、外の空気を少しでも吸う機会を持つように考えている。今後も、ご家族やボランティアの協力を得ながら、少人数単位で積極的に取り組んでいきたい。	近くの公園へ犬の散歩を兼ねて出掛けたり、食料品を買いに入居者と出掛けている。スタッフも充実し、車椅子対応の車も購入したのでみんなで遠くに外出できるようになった。大型スーパーや外食にも行きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、個々の利用者さまは持っておられず、個々の買い物については、事業所が立て替えることにしている。買い物時に、支払いを頼むことができる方がおられる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からのご家族への連絡時に、電話を代わることがある方がおられる。希望があれば随時家へ電話をかけて話しをしてもらっている。手紙のやり取りは行っていないが、GHへ直接手紙が届いた際は、利用者へ届けています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の照明は間接照明、暖色系の光に統一している。廊下の各所に飾り棚を配置して、観葉植物を置いている。また、天窓や大きな窓を配置し、自然の光を取り入れるようにしている。	廊下は太い梁がむき出しの天窓から日の光が注ぎ込み、明るく広い廊下には縁台が置かれ、観葉植物や絵画、五月人形が飾られている。入居者は廊下を散歩し、疲れると縁台で一休みし、ゆったり過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたり、掘りごたつのある和室や廊下に縁台などを配置して、自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のものは全て持ち込みをお願いし、今まで使っていた家具などを用い、その人らしい部屋作りをご家族と一緒に考え、お願いしている。	畳敷きの部屋にベッドが置かれ、各自使い慣れたタンスや家具を置き、「ちょっと疲れたのでベッドで一休み」と居心地良く暮らせている。各部屋にトイレがあるのも嬉しい。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テ-ブルやイス、手すりの位置、キッチンの高さなど、高齢者に使いやすい低めの物を用意している。また、お部屋のタンスやベッドの配置などご本人の動線に配慮して配置するようにしている。		